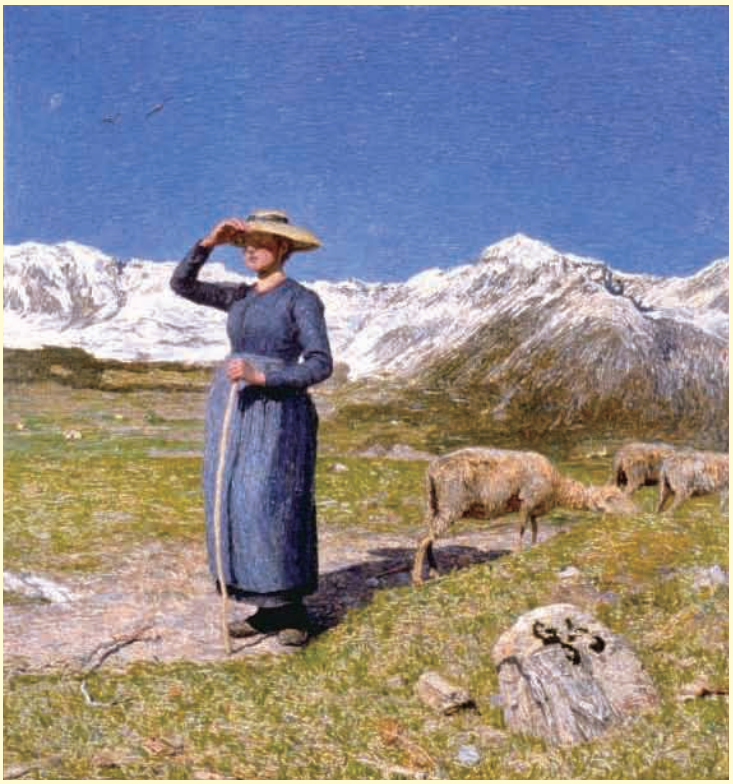
No.38

損保ジャパン東郷青児美術館

SEIJI TOGO MEMORIAL
SOMPO JAPAN MUSEUM OF ART

NEWS



ジョヴァンニ・セガンティーニ
《アルプスの真昼》
1891年、油彩・キャンヴァス
セガンティーニ美術館
（オットー・フィッシュバッハー財団より寄託）

# アルプスの画家 セガンティーニ
## ―光と山―

2011年4月29日［金・祝］→7月3日［日］

33年ぶりの回顧展

ジョヴァンニ・セガンティーニ（1858～99年）は、スイスのアルプスに魅せられて、アルプスの山々とそこに暮らす人々を描き続けた画家です。また、19世紀末イタリア美術の前衛である分割主義、象徴主義の代表者の一人に位置づけられています。

イタリアに生まれ、少年時代から画才を示したセガンティーニは、ミラノのブレラ美術学校で古典を学びながらも、フランスを中心に起こった美術の新しい潮流に影響を受けます。画業の前半は、イタリアの身近な農村風景をテーマにした写実主義の作品を描き、スイスに移住した後半に、フランス新印象派に似た分割主義の細長い筆触で、光と色彩あふれるアルプスの風景画に取り組みます。また晩年には、アルプスを舞台に母性、生、死、虚栄などの内面的なテーマで、象徴主義の傾向を強めることになります。

本展覧会は、このような初期から晩年までのセガンティーニの画業を、その生涯とともに紹介するものです。スイス・セガンティーニ美術館、ミラノ市立近代美術館をはじめとする国内外のコレクションから、厳選された油彩、素描を含む約60点のほか、自筆の手紙などの資料によって構成します。

41歳の若さで他界したセガンティーニの作品は数少なく、また世界に散逸しているため、まとまった数を集めた個展の開催は海外でも限られています。本展覧会は、国内では33年ぶりに実現する2回目の回顧展であり、画家の全貌とその魅力にあらためて迫る貴重な機会となります。

タグチ・アートコレクション

# GLOBAL NEW ART

## ～現代アートをもっと楽しむために～

**2011年7月12日(火)～8月31日(水)**

ケヒンディ・ウイリー《ホワイト・オーキッド》
2005年、油彩・キャンヴァス
©Kehinde Wiley

ウォーホルやリキテンスタイン、イギリス現代絵画を代表するジュリアン・オピー、YBAのデミアン・ハースト、ブラジルの人気作家ヴィック・ムニーズ、現代インドをポップに描くトゥークラル＆タグラ、奈良美智や大岩オスカール……「1980年代以降の現代絵画の代表的なものは網羅」したい、と語るコレクター・田口弘氏のコレクションには、国際的なビッグネームが名を連ねています。

田口氏は、1990年頃にキース・ヘリングの「斬新な構図やカラフルな色合い」に魅せられ、アメリカ現代絵画を中心に、社長をつとめていたミスミの企業コレクションを作り上げました(「ポップアート1960'→2000's」展として巡回)。そのかたわら「ニュー・ペインティング」と呼ばれるような80年代以降の大型絵画を自ら収集するうちに、急速なグローバル化を反映してニューヨーク美術界がひきよせた世界の作家たちへと視野を広げていったのです。

作家の代表作たりえる大作ぞろいの作品群は100点をこえますが、当館では2000年代に制作された作品を中心に約40点を展示します。様々な場所で、様々な活動をしている作家達が平面作品で一堂にならぶさまは滅多に見られるものではありません。世界で通用する作品群がもつ普遍性と、その上で演出される、あるいは、にじみ出るお国柄とのバランス……。さらに、田口氏のご好意で、お宅の写真をちょっとご紹介。クールな現代アートが、それを愛する人の生活に溶け込んだ姿をのぞいてみませんか。

赤十字150年

# 日本赤十字社所蔵アート展

## 東郷青児、梅原龍三郎からピカソまで
## ―いのちと尊厳によせる想い

**2012年1月7日(土)～2月19日(日)**

東郷青児《ナース像》1974年、油彩・キャンヴァス、日本赤十字社

東郷青児が描いた戦場の絵をご存じでしょうか。19世紀にスイス人アンリー・デュナン(1828～1910年)が赤十字思想を生み出すきっかけとなった、イタリア統一戦争の激戦地ソルフェリーノを描いた300号近い油彩画です。女性像で知られる青児にしてはめずらしく、実在の風景と兵士達をていねいに描いたこの大作は、現在、港区芝にある日本赤十字社の本社ロビーに展示されています。東京タワーの足元に立つ日赤本社ビルの中には、ほかにも梅原龍三郎や永瀬義郎、東山魁夷など、東郷と同じく人道思想に共鳴した美術家達から寄贈された100点をこえる作品が飾られています。

デュナンがソルフェリーノの惨状を見かねて「敵味方の区別なき救護」を始めたのは1859年。それを各国に呼びかけ、赤十字国際委員会の前身である五人委員会に結実したのが1863年。現在、日赤をふくむ世界186の赤十字社は、それから150年目にあたる2009～13年を「赤十字150年」として活動の普及につとめています。

東郷青児の記念館である当館では、この機会に、日赤所蔵の絵画群を公開し、あわせて、79歳の東郷をソルフェリーノの現地取材へとつき動かした赤十字思想とその活動をご紹介します。

# モーリス・ドニ

## ―いのちの輝き、子どものいる風景―

Maurice Denis - Le Matin de la vie -

**2011年9月10日(土)～11月13日(日)**

モーリス・ドニ(1870～1943年)は、19世紀末から20世紀前半にかけて活躍した、フランスの象徴派を代表する画家です。前衛芸術グループ「ナビ派」の創立主要メンバーであり、平面や単純な形態を使った装飾的なスタイルは、20世紀における抽象絵画運動に少なからぬ影響をあたえたと言われています。優美な曲線と抒情的な色彩を用いた作品は親しみやすく、同時に神秘的な趣もたたえています。

自らも敬虔なカトリック教徒であり、ナビ派の時代には「美しきイコン(聖像)のナビ」と呼ばれたドニは、聖書あるいはギリシャやローマ神話を主題にした作品で知られています。しかしその一方で、日常生活に基づいた「アンチーム(親密)」な作品、特に自分の子どもたちや家族を描いた作品は、ドニの芸術の中で主要な位置をしめているといえます。

ドニは二度の結婚により、9人の子どもたちに恵まれました(うち一人は早世)。彼らをモデルに、誕生、はじめてのミルク、歩きはじめ、食事、入浴、勉強など、子どもたちの成長の様子や幸せな日々の光景が、まるで家族のアルバムのように、ドニの作品の中に再現されています。

しかしドニにとって子どもを描くということは、単に幸福な日常を画面にとどめるだけではなかったといえます。赤ん坊のうちに亡くなった第1子ジャン＝ポールの死、死期をさとったような憂いの表情を浮かべた妻マルト(マルトは第7子ジャン＝フランソワが4歳の時に死去)など、ドニは生命の輝きにひそむ、生きることの悲しみや苦しみも見逃すことはありませんでした。また、ドニの子どもたちはしばしば神話や聖書の場面の中に、その登場人物の姿を借りて描かれているように、ドニにとって「子ども」、そして「子どもを描くということ」は、家族への愛情表現を超越し、「生」あるいは「死」とは何なのか、もしくは「生命」そのものを探求するためのひとつの術であったのかもしれません。

本展覧会では、ドニの作品の中でも「子ども」や「家族」を主題にした作品に注目し、その変遷をたどりながら、ドニの芸術にアプローチします。フランスを中心とする美術館および個人が所蔵する作品に加えて、新たに発見された未公開作品も数多く出品されます。

1

2

3

4

5

①モーリス・ドニ《子どもの身づくろい》1899年、油彩・キャンヴァス、個人蔵
②モーリス・ドニ《ジャン＝ポールの死》1895年、油彩・厚紙、個人蔵
③モーリス・ドニ《縞模様のクッションの母子(憂いの母子像)》1915年頃、油彩・厚紙、個人蔵
④モーリス・ドニ《バルコニーの子どもたち、ヴェネツィアにて(ヴェネツィアのバルコニーにて)》1907年、油彩・キャンヴァス、パリ・オルセー美術館(カーン美術館寄託)
⑤モーリス・ドニ《川から救いだされたモーゼ》1900年、油彩・テンペラ・キャンヴァス、個人蔵

**2011ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭**

## 東郷青児展

**2011年9月23日(金・祝)～10月10日(月・祝)**
**北國新聞赤羽ホール**

金沢は、九谷焼、漆器、金箔、友禅、象眼、水引細工、繊細な和菓子など「加賀百万石」とうたわれる伝統文化の数々によって旅好きな人々を魅了します。1952年以来、毎年6月に開催される「百万石まつり」では、行列や茶会などの華やかな行事が催されています。一方で、1996年に設立された石川県芸術文化協会は「石川県の文化振興」のために1999年から「ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭」を開催、県内の文化団体に発表の場を提供すると共に、ドイツやオーストラリアなどとの海外交流も進めています。

その「ビエンナーレいしかわ」のプログラムのひとつとして、今年の秋に、当館所蔵の作品による「東郷青児展」が開催されることになりました。パリ仕込みの装飾性と、幾何学的で抑制された造形を融合させ、さらに日本画や浮世絵にも通じる繊細な仕上げを追求した東郷の絵画は、金沢のおちついた雰囲気にとけこむ展覧会になることと思います。

東郷青児《望郷》1959年、油彩・キャンヴァス

## 東郷青児とデザイン展

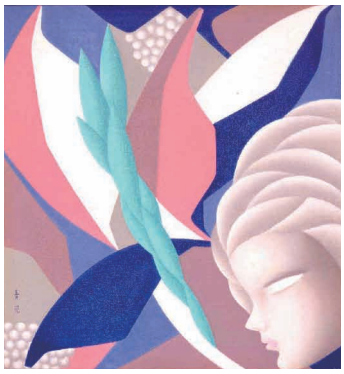
**―所蔵コレクション―**
**2011年11月19日(土)～12月25日(日)**

東郷青児は留学中にギャラリー・ラファイエットのパリ本店とニース支店で装飾美術の仕事をしました。またこの頃、トルストイが周囲の農民たちに自分の小説を読み聞かせ、農民たちが理解できるまで書き直したという新聞記事に感銘を受け、誰にでも理解できる作品を志したともいわれています。

帰国後は絵画制作だけでは生活ができず、文学雑誌に寄稿し何とか生活を続けました。1930年には読売新聞漫画部員として漫画作品を発表しています。1933年より安田火災(現損保ジャパン)の前身である東京火災のパンフレットやカレンダーで東郷作品が採用され、東郷は1963年から1978年まで安田火災の贈答用扇子の原画を手がけました。

また東郷は、日本全国の数多くの洋菓子店の包装紙をデザインし注目を集めました。清酒ボトルのデザインや書籍の装丁にも従事するなど、東郷は生涯を通じて、広い視野の中で活動を続けたといえます。

本展では、絵画作品の展示に合わせ、東郷が執筆・翻訳・装丁・挿画を担当した書籍、東郷作品を使用した包装紙、紙袋、風呂敷、扇子、リーフレット、カレンダー、レコード・ジャケット、化粧品、食器(グラス、皿)、オリンピック記念メダルなどを展示し、東郷の幅広い活動の軌跡をご紹介します。



東郷青児作安田火災住宅総合保険リーフレット原画
1961年、油彩・キャンヴァス

TOPICS

# INFORMATION　2011年4月―2012年3月

**2011年4月29日(金・祝)～7月3日(日)**
**アルプスの画家 セガンティーニ　―光と山―**
◆月曜休館(5月2日は開館)、午前10時～午後6時(金曜日は午後8時まで)
入館は閉館の30分前まで

**2011年7月12日(火)～8月31日(水)**
**タグチ・アートコレクション　GLOBAL NEW ART**
**―現代アートをもっと楽しむために―**
◆月曜休館(7月18日は開館)、午前10時～午後6時(金曜日は午後8時まで)
入館は閉館の30分前まで

**2011年9月10日(土)～11月13日(日)**
**モーリス・ドニ　―いのちの輝き、子どものいる風景―**
【お客様感謝デー無料開館日10月1日(土)】
◆月曜休館(9月19日、10月10日は開館)、午前10時～午後6時(金曜日は午後8時まで)　入館は閉館の30分前まで

◆観覧料：一般1,000円(800円)／大高生600円(500円)
(　)内は前売りおよび20名以上の団体料金／シルバー〔65歳以上〕800円
中学生以下無料

**2011年11月19日(土)～12月25日(日)**
**東郷青児とデザイン展　―所蔵コレクション―**
◆月曜休館、午前10時～午後6時
入館は閉館の30分前まで

**2012年1月7日(土)～2月19日(日)**
**赤十字150年 日本赤十字社所蔵アート展**
**東郷青児、梅原龍三郎からピカソまで―いのちと尊厳によせる想い**
◆月曜休館(1月9日は開館)、午前10時～午後6時
入館は閉館の30分前まで

**2012年3月3日(土)～4月1日(日)**
**第31回損保ジャパン美術財団 選抜奨励展**
◆月曜休館、午前10時～午後6時
入館は閉館の30分前まで

◆観覧料：一般500円(400円)／大高生300円(200円)
(　)内は20名以上の団体料金／中学生以下無料

【お知らせ】　東日本大震災の影響により上記予定は変更される場合があります。
★ギャラリートークなどの関連企画は、ホームページをご覧ください。
⇒　http://www.sompo-japan.co.jp/museum/

NEWS
お問い合せ先 ハローダイヤル 03(5777)8600


公益財団法人 損保ジャパン美術財団　損保ジャパン東郷青児美術館
160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 損保ジャパン本社ビル42階
電話 03(3349)3081[代表]／ファックス 03(3349)3079
ホームページ＝http://www.sompo-japan.co.jp/museum/
交通＝JR新宿駅西口、丸ノ内線新宿駅・西新宿駅、
大江戸線新宿西口駅D4出口より徒歩5分

損保ジャパン東郷青児美術館ニュース　No.38
発行日(年1回発行)＝2011年3月31日
発行＝公益財団法人損保ジャパン美術財団 神崎慎一郎
編集＝公益財団法人損保ジャパン美術財団 中島啓子
製作＝求龍堂
印刷＝凸版印刷株式会社